

原料作物（てん菜、さとうきび、でん粉原料用ばれいしょ・かんしょ）について

1．品目横断的政策への転換に当たっての原料作物についての配慮

てん菜、さとうきび、でん粉原料用ばれいしょ・かんしょといった原料作物については、特定の地域の農業における基幹作物であり、その生産が関連産業とともに地域の経済社会において重要な位置を占めていることを踏まえて対策を構築すべきである。（P.12）

その際、市場原理の一層の導入や関連産業も含めたコスト削減の推進に資するものとして施策の在り方を検討する必要がある。（P.12）

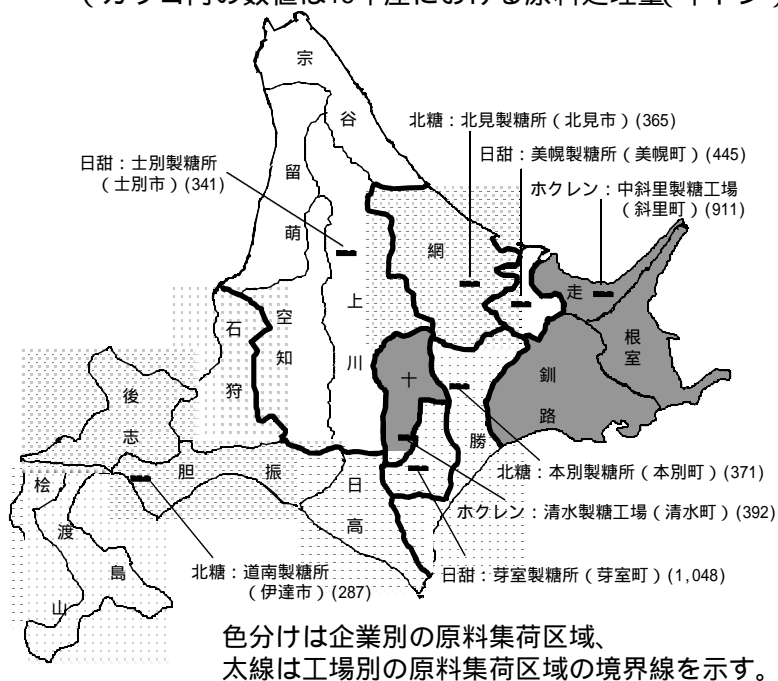
なお、さとうきび、でん粉原料用かんしょについては、代替作物に乏しい自然条件の下で、その多くが零細な経営により生産されている実態を踏まえた対応が必要である。
（P.12）

食料・農業・農村政策審議会 中間論点整理（平成16年8月10日）〔抄〕

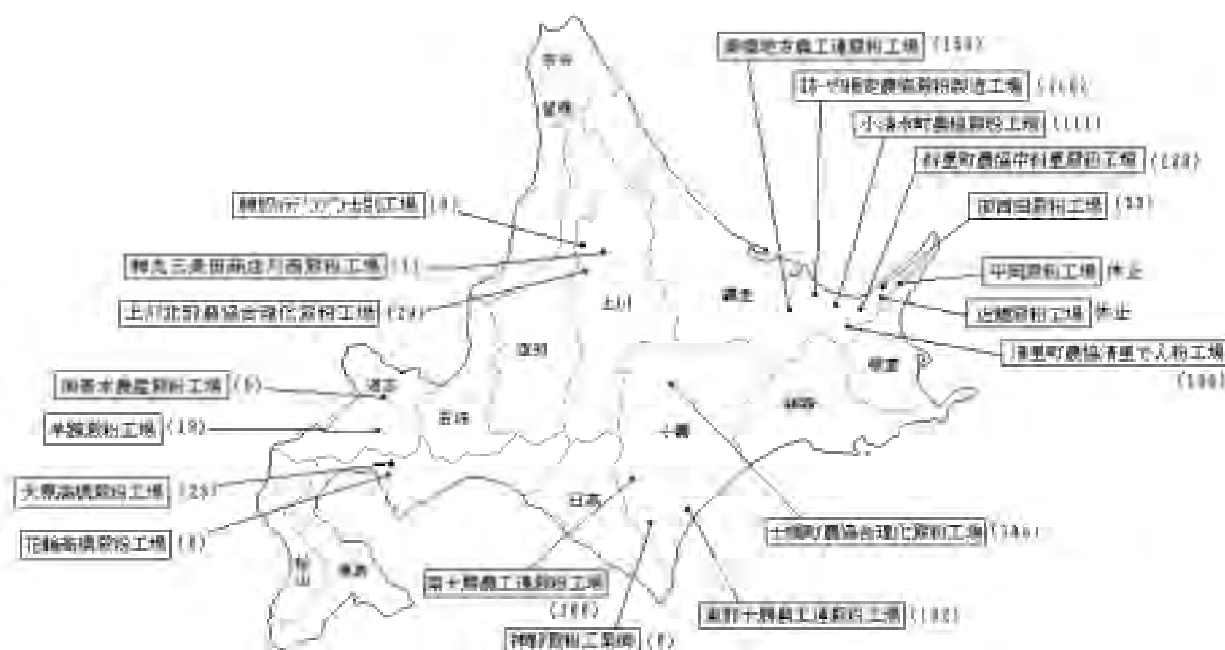
てん菜、さとうきびの作物特性

- ・ 常温では、速やかに処理されないとショ糖分が減少する等、品質が劣化しやすい。
- ・ そのほとんどが水分から構成されているため、製品歩留りが低く、輸送コストが高む。
- ・ 工場において、加工しない限り、ほとんど生産物の価値がない。

てん菜糖工場分布図（平成16年度）
（カッコ内の数値は15年産における原料処理量（千トン））



ばれいしょでん粉工場分布図（平成15年度）
（カッコ内の数値は15年産における原料処理量（千トン））



工場立地市町村における位置づけ

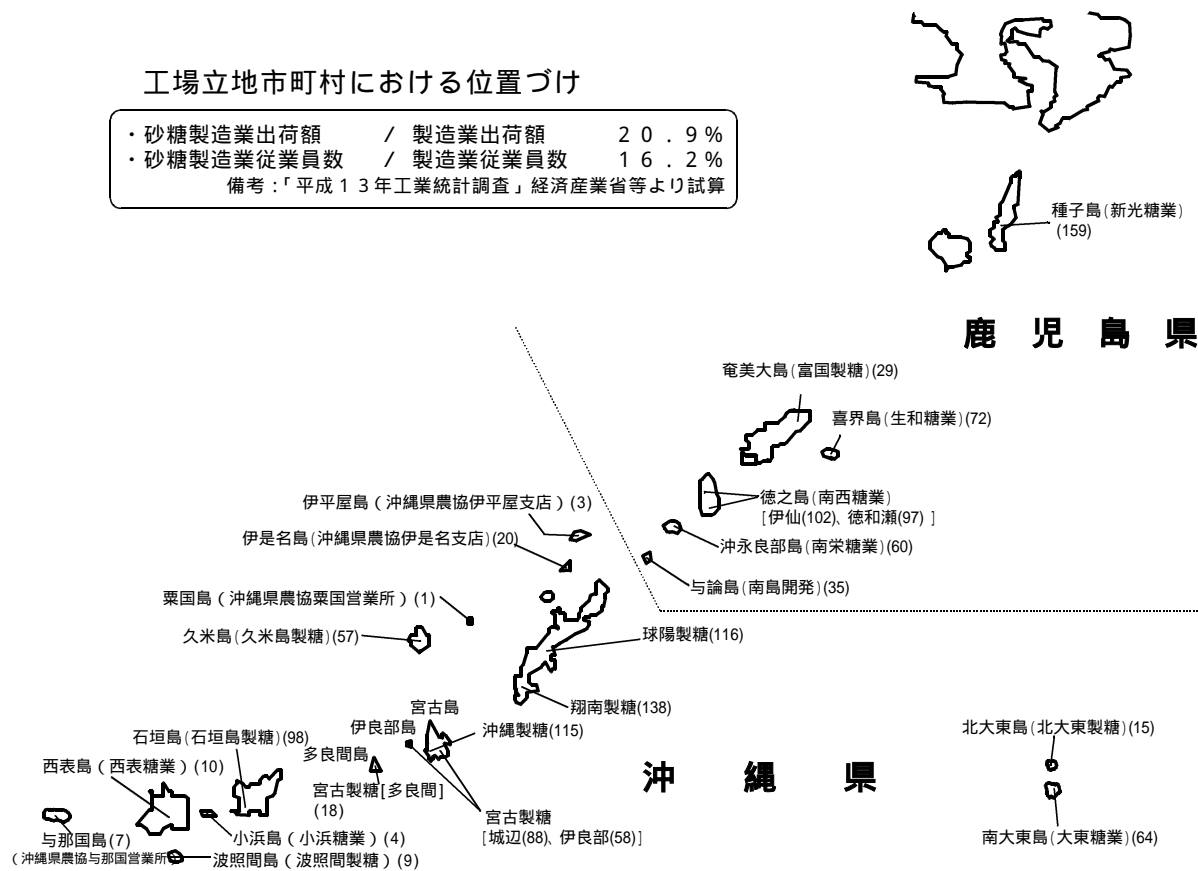
| | | | |
|--------------|---|---------|-------|
| ・ 砂糖製造業出荷額 | / | 製造業出荷額 | 23.4% |
| ・ 砂糖製造業従業員数 | / | 製造業従業員数 | 8.4% |
| ・ でん粉製造業出荷額 | / | 製造業出荷額 | 13.1% |
| ・ でん粉製造業従業員数 | / | 製造業従業員数 | 1.7% |

備考：「平成13年工業統計調査」経済産業省等より試算

甘しゅ糖工場分布図(平成16年度)
(カッコ内の数値は15年産における原料処理量(千トン))

工場立地市町村における位置づけ

・砂糖製造業出荷額 / 製造業出荷額 20.9%
・砂糖製造業従業員数 / 製造業従業員数 16.2%
備考:「平成13年工業統計調査」経済産業省等より試算



甘しゅでん粉工場の分布図(鹿児島県)(平成15年度)
(カッコ内の数値は15年産における原料処理量(千トン))



工場立地市町村における位置づけ

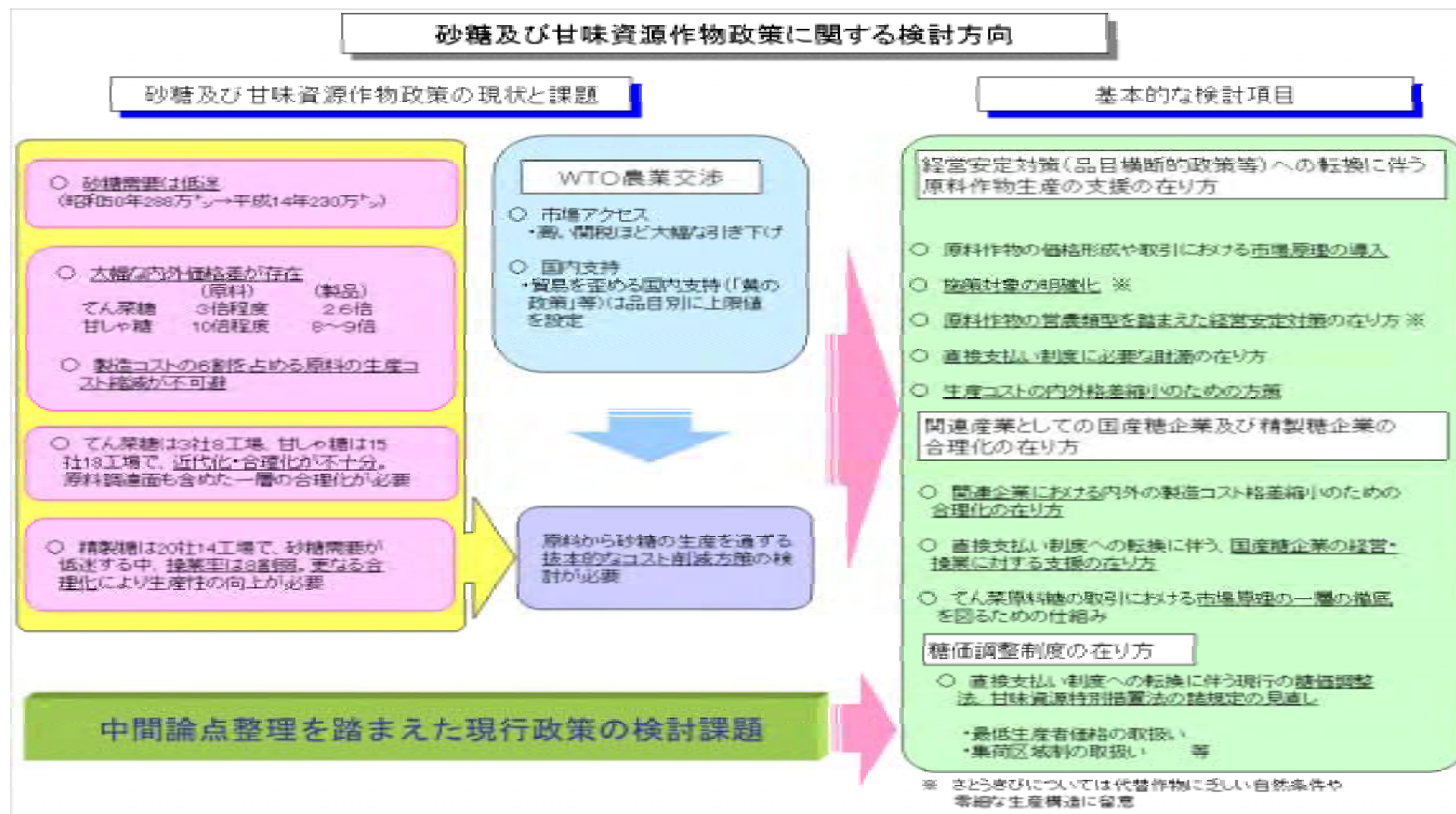
・でん粉製造業出荷額 / 製造業出荷額 11.3%
・でん粉製造業従業員数 / 製造業従業員数 1.4%
備考:「平成13年工業統計調査」経済産業省等より試算

2. 原料作物に関する検討状況

(1) 基本的方向

企画部会の「中間論点整理」を踏まえ、砂糖及びでん粉に関する制度・施策のあり方を掘り下げて検討するため、生産者、製造業者、学識経験者から構成される「砂糖及びでん粉に関する検討会」(林良博座長(東京大学副学長))を立ち上げ、品目横断的政策への転換に伴う原料作物生産への支援や関連政策の在り方について、検討を行っているところ。

(同検討会においては、年内に中間的な論点整理を行い、来年3月に関連政策に関する大綱を取りまとめる予定)



でん粉及びでん粉原料用いも政策に関する検討方向

でん粉及びでん粉原料用いも政策の現状と課題

- でん粉需要は横ばい
(概ね300万トン前後で推移)

- 大幅な内外価格差が存在

| | (原料) | (製品) |
|---------|-------|------|
| 原料ばれいしょ | 2.7倍 | 2.0倍 |
| 原料かんしょ | 11.0倍 | 8.1倍 |

- 製造コストの2割を占める原料の生産コスト縮減が不可欠

- 再編合理化を進めたものの、でん粉工場の操業率は7～8割。更なる合理化により生産性の向上が必要

平成6年109工場 → 15年51工場
ばれいしょでん粉 17工場(北海道17)
かんしょでん粉 34工場(鹿児島9)

WTO農業交渉

- 市場アクセス
・高い関税は大幅な引き下げ
- 国内支持
・貿易を歪める国内支持(「黄の政策」等)は品目別に上限値を設定

原料からでん粉の生産を通ずる抜本的なコスト削減方策の検討が必要

基本的な検討項目

経営安定対策(品目横断的政策等)への転換に伴う原料作物生産の支援の在り方

- 原料いもの価格形成や取引における市場原理の導入
- 施策対象の明確化 ※
- 原料いもの営業類型を踏まえた経営安定対策の在り方 ※
- 直接支払い制度に必要な財源の在り方
- 生産コストの内外格差縮小のための方策

関連産業としてのいもでん粉製造業者の合理化の在り方

- いもでん粉の価格形成や取引における市場原理の導入
- 直接支払い制度への転換に伴う、いもでん粉製造業者の経営・操業に対する支援の在り方
- でん粉製造業における内外の製造コスト格差縮小のための合理化の在り方

価格支持制度等の在り方

- 直接支払い制度への転換に伴う現行の農産物安定法やコーン・スターチ用とうもろこしの関税割当制度の運用の見直し
- ・原料基準価格の取扱い、
- ・政府買入れの取扱い、
- ・抱合せの取扱い、 等

※ 原料かんしょについては代替作物に乏しい自然条件や零細な生産構造に留意

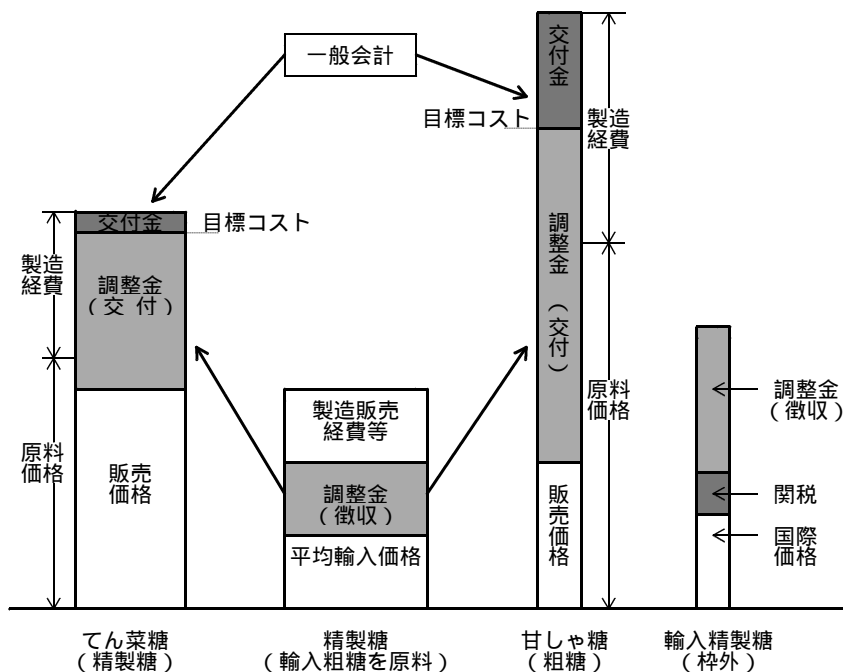
中間論点整理を踏まえた現行政策の検討課題

(2) 甘味資源作物の価格形成や取引における市場原理の導入の考え方 検討方向

てん菜及びさとうきびに係る価格形成を見直し、市場原理を導入することについては、以下のような論点を提示し、関係者による議論を行っているところ。

- ・ 糖価調整制度は、輸入糖等からの調整金と国からの交付金（国産糖企業が最低生産者価格以上で原料作物を買い入れた場合に交付）により原料作物及び国産糖に対して助成し、生産者及び関連産業の経営の安定を図るもの。大幅な内外価格差の下、現行制度による価格調整の枠組を維持することが必要ではないか。
- ・ 他方、現行の政策の下では、当該年に生産された原料作物の全量について取引価格が固定されるため、需要を上回るてん菜糖の生産などへの対応が十分ではなく、結果としてコスト削減が実現できていない等の問題があるのではないか。
- ・ このため、取引価格を固定的・硬直的にしている措置は見直し、市場の需給動向を反映した取引価格が形成される制度へ移行することが必要ではないか。

糖価調整制度による国内産糖への助成



糖価調整制度の下で、国産の精製糖（輸入粗糖を原料）は価格面で輸入精製糖よりも低い水準となるため、精製糖の輸入実績はほとんどない

甘味資源作物に係る価格支持政策の課題と展開方向

【現状と問題点】

市場と切り離された形で、原料の取引価格が固定

需給事情が生産者に的確に伝わらない
生産コストの削減に向けた努力が行われない
結果として、内外価格差を背景に、砂糖需要が低迷

【政策転換の視点】

需給事情を反映した適正な生産の確保
主体的な経営判断による合理化努力・生産性向上努力が発揮される環境条件の整備
生産コストの削減による一層の生産性の向上

【展開方向】

市場原理による価格形成
経営安定のための措置の導入

② 取引等の仕組み

○ 併せて、市場原理を導入した場合の取引や政策支援の仕組みについても、以下のようなイメージを提示しているところ。

・ 生産者と国産糖企業との取引については、

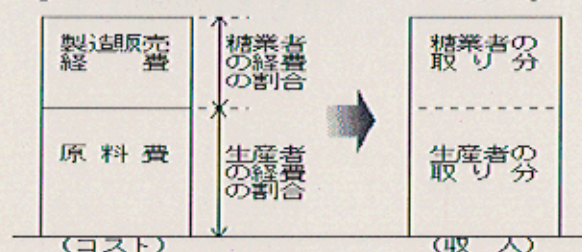
① 甘味資源作物の品目特性（品質劣化しやすい、輸送コストが高む等）を踏まえれば、広域流通が困難で、入札やセリによる市場取引は想定し得ないこと

② 製造コスト縮減による内外価格差の是正、需要に応じた生産の確保のためには、甘味資源作物の安定供給が不可欠であることから、契約栽培による取引を基本に検討することが適当ではないか。

・ また、価格形成については、砂糖に加工された段階ではじめて甘味資源作物の市場の価値判断がなされることを踏まえ、需給事情を反映した価格形成が行われるよう、諸外国の例に倣い、生産者と糖業者で収入を分配するといった方式を基本に検討することとしてはどうか。

○ 収入を分配する方式のイメージ

（コストに占める生産者と糖業者の経営の割合等で、砂糖の販売収入を分配）



○ 市場原理導入後のてん菜及びてん菜糖の政策支援と価格形成

